

令和6年度 大田区入新井第五小学校 校内研究 研究報告

令和7年3月25日

○ 文部科学省・国立教育政策研究所 教育課程 実践検証協力校 令和2年度～ 5年目

○ 大田区教育委員会 特色ある学校「生きる力を育むプログラム 実践研究校 令和5年度～ 2年目

I 特色ある教育活動のテーマ

「予測困難な時代を生きていく児童の適応力の育成 ～主体的・協働的な活動を通して～」

新教科「おおたの未来づくり」の導入を次年度に控え、昨年度までの特別活動にウエイトを置いた研究を維持しつつも、新教科導入の趣旨を押さえた研究についても積極的に取組を進めなくてはならない。特に、予測困難と言われる時代に於いて、いかなる状況下においても、時代が求める新たな学習事項に敏感に適応し、その学びの深化によって確固たる自信を身に付け、力強く生き抜くためのツール、すなわち「生きる力」を身に付けなければならないのである。本校では、「生きる力」を育成する上で、「適応(力)」という言葉キーワードに、「学校・学級に適応」「社会や地域に適応」「仕事や働くことに適応」「今日的な課題に適応」という四つの分野における適応力の育成を図った。これら、様々な適応力の育成のために、「特別活動」をはじめ、「生活科・総合」「おおたの未来づくり」の授業研究を通して様々な検証を試みた。

II 主な取組内容

(1) 学校・学級に適応プロジェクト（人・人々に適応）

本プロジェクトは、学校（学校行事・集会活動・委員会・クラブほか）・学級（学級活動）における集団活動を通して、人間関係づくりの大切さを体得させ、人（集団）に適応できる力を身に付けさせることを目的とする。将来、社会に出たとき、人はどうしても他の人とのかかわりをもたざるを得ない。したがって、社交性・協働性ほか様々な力を有していることは、生きる上で最大の強みとなる。学びの切り口として特別活動、とりわけ学級活動の充実を主眼に置き、①自分たちの力で、②互いの考えを尊重し、③共に折り合いをつけながら、④誰もが納得できる決着を導き出せる、集団の中の自分を育成する取組を進めた。検証授業として、学級活動（1）の学級会における合意形成による集団決定と学級活動と、（2）いじめの防止（他の人との感じ方の違いを認識する・相手の気持ちを考えた行動）について検証した。人と人、相互の関係に適応できる力を身に付ける経験を積ませるこれらの取組は、通年の課題とし全学級で取り組んだ。

(2) 社会に適応プロジェクト

本プロジェクトでは、おおたの未来づくりの地域創生を目的とし、重点的に取り組みを進めた内容である。地域社会との関係を主眼に置き、町会・警察等官公庁・地域ボランティア、民生児童委員など公的役職の方々など、多方面の人材との連携を図りながら研究を進めた。児童一人一人が地域の人々から守られていることを実感することから始め、いつかはその経験を地域に還元していこうという、地域創生の意識の芽生えに繋げる学習を展開した。検証授業の1つ目は、第4学年における地域学習として、自分たちの住む大森のまちづくり・大田区の街づくりに焦点を当て、小さい子どもからお年寄りまで、誰もが安全かつ健やかな生活が送れるようにするための様々な取組がなされていることを学ばせた。地域環境の整備・道路の保全ほか公共工事・生活インフラの整備・治安維持や防災対策ほか、大田区役所の様々な機関が日々努力を重ね、町が良くなっていることを知る良い機会となった。二つ目の検証授業は新教科「おおたの未来づくり」の取組として、「子どもが主導する学校防災訓練」の実施である。この取り組みは、昨年度から2年計画で考えられた学習である。どの町会も高齢化が進み、訓練やそのスキルの確認は行われるものの、実際の災害場面で十分機能するかと言えば正直なところ疑問が残る。すなわち、後継者不足なのである。コミュニティスクールである本校の学校運営協議会に於いて、地域から高学年の児童に皆で力を合わせ、町の人々を災害から守ろうという提案・要請があり、児童自らが考え、避難者の安全を確保する取組を行った。将来、自らが災害に立ち向かい地域貢献できる素地が育つように、意識の芽生えを期待した学習を展開したわけである。本取組は、「おおたの未来づくり」を牽引する大田区教委 秋山統括指導主事からも高く評価される検証授業となったことに喜びを感じている。地域創生の取組により、地域社会に適応する力が確実に育っていることを実感する。

【Jcom ケーブルTVによる 取材および放映】

(3) 働くことに適応プロジェクト

新教科「おおたの未来づくり」の柱の一つである「働く」ことへの理解についての学習である。本校の周りには、伝統的産業としてノリの養殖・加工の歴史がある。今も周辺地域には老舗となる海苔問屋が点在する。その一つ守半海苔店との相互交流により、調べ学習・体験学習を経験させていただき、そこから発展させた販売という仕事に目を向けさ

せ、より良い商品をより手ごろに、伝統と格式を維持させながら「売る」という労働について考えさせた。今年度は、検証授業は行わないものの、通年の取組として多くの学習に協力をいただいた。検証授業としては、学校医に焦点を当て、養護教諭と4学年担任がTTとして授業づくりを行った。子どもたちは学校医がいることは知っているものの、学校薬剤師の存在はほとんど知らない。そこで、ゲストティーチャーとして授業に招聘し、プールの水質検査や給食室の細菌検査、日ごろ口にする水道水の水質調査などを教えていただき薬剤師の仕事への理解を深めた。もう一つの検証授業は、2年生がどこの学校でも行う生活科の「お店体験」である。昨年度の地域安全マップの形骸化への対処と同様、ただお店に行ってインタビューをしたり、お店体験をしたりするのではなく、一步深い学びに結び付け、実際に仕事を一緒にさせていただいた店員さんになりきり、ロールプレーしながら他の児童にお店の人の仕事に関する姿勢を伝えるという授業を行う。来月23日実施のため、小中88校に配布する資料集で、実際の様子を詳しくレポートしたい。

(4) 今日的な課題に適応プロジェクト

本プロジェクトでは、児童を取り巻く様々な課題への適応力を身に付ける学習を重ねた。昨年度までの研究においても、特別活動(2)において、「SNSとの正しいかかわり方」「いじめについて考える」「フワフワ言葉・チクチク言葉」「バランスの良い食事(食育)」など、様々な今日的課題に対する知識の習得・危険回避等の術について学んでいる。しかし、児童を取り巻く今日的課題は年々巧妙化しており、児童を取り巻く環境はより複雑化している。今年度の取組は、昨年度に引き続き、5年生における「SNSの正しい使い方」と3年生の「フワフワ言葉とチクチク言葉を考える」である。昨年「SNS問題」への取組を行ったが、今年度はさらに踏み込んだ取り組みに着手した。「いけないことはわかっている。しかし、実際に厳しいメールの遣り取りの中で、あなたは信念に基づく毅然とした行動がとれますか?」という視点で授業を構成した。誹謗中傷に関わるメールのやり取りを、複数の教員がスクリーン上で「○○のやつ、最近調子乗ってないか?」「そう思うよ」「みんなで○○しようぜ」と遣り取りし、その状況下で、真剣に考えるというよりリアルな体験の中で考えを深める授業に取り組んだ。巷にあふれる汚い言葉や相手を傷つける言葉に着目させ、より良い言葉があふれる社会になるように決意決定する授業であった。いずれの授業も、身近に潜む様々な今日的な課題に正対し、真剣にそれらのことに適応しようとする姿勢が見られるようになっている。

【Yahoo!ニュース(ヤフーニュース) 報道 2月20日(木) ふわふわ言葉 ヤフーニュースで検索可能】

III 取組の成果と課題(成果指標の達成度も含めて記載)

「適応する力」を「生きる力」と結び付け、その関連性において多角的な検証を行い、児童が生きる上で必要となる様々な知識を身に付ける取組を進めることができた。「経験したことがある」「そのことを知っている」とはっきり言える経験を高めさせたことにより、不安や戸惑いに立ち向かえる免疫的な力が着実に身についてきている。「知らない」から「知っている」子どもたちを増やすこと。知っているからこそ、生きる力として役立てながら生活できることを、今後も証明しながら、児童の様々な課題への適応力を高めていきたい。とりわけ、今後の課題への解決事項・来年度への研究の展望として、現在の四つの視点において遣り残している学習項目についての追究活動・来年度も継続する文部科学省・国立教育政策研究所 実践検証協力校の取組を継続し、昨年度同様、大田区小中88校に、研究成果資料として冊子を配布する。内容は、実践報告のみならず、どの学校でもすぐに実践できるようQRコードで指導案や写真を提供できるように工夫してある。

IV 成果指標の達成度にかかわる検証

申請当初の成果指標及び目標数値に対する11月末日現在の児童調査(グーグルフォームにて)の結果は、どの成果指標に対しても数値の伸びが見られる。昨年度の課題であったデータの信憑性についても、事前に回答の仕方を示すことで、曖昧な根拠による回答が概ねなくなり、研究の取組やその成果として反映された数字として十分に実証できる数字であると考えられる。以下が、調査の結果である。

4:さまざまな場面で適応力を発揮し、自分から自信をもって問題を解決することができる。

【R4】65%→【R5】77%→【R6】80%(目標値並み)

3:児童を取り巻く今日的な課題への適応力を身に付け、自分なりに対処することができる。

【R4】80%→【R5】84%→【R6】86%(目標値+1ポイント)

2:地域の方々との交流を通して適応力を身に付け、地域に貢献しようとする事ができる。

【R4】80%→【R5】85%→【R6】86%(目標値+1ポイント)

1:学校や学級への適応力を身に付け、自分が集団の一員として行動することができる。

【R4】80%→【R5】87%→【R6】89%(目標値+4ポイント)